

【編集後記】

- …編集委員の経験不足、未熟さから創刊号以来最も薄い号（あくまでも頁数において）になってしまいました。会員の皆様には、お詫び申し上げます。執筆者の方々には、いろいろな事情を抱える中、原稿をお寄せ頂き感謝申し上げます。
- …2006年の研究総会に向けての企画の段階で、「人権擁護団体」が一つのテーマとして浮上した議論の場に私は偶々居合わせましたが、そのとき、個人的には、総会テーマとして必ずしも明確な像を結ぶことができなかつたことを反省と共に告白します。その際、頭によぎった漠たることに何かかの形を与えるとすると、一つには、「体制制約原理」が働く現社会主義国において、体制制約原理からの独立が要請される「人権擁護団体」を議論する余地と意味がどれだけあるのだろうか、という思いと、今ひとつには、「体制制約原理」を受け入れた団体へ結集する権利ではなく、自由に団体を結成する権利を憲法上獲得した旧社会主義国にしても、機能している「人権擁護団体」はいったいどれだけあるのか、あるとしてもその活動実績を明らかにできるほどの資料を得られるのだろうか、別の言い方をすると、旧社会主義国にあつてはこのテーマはやる意味があるとしても、総会テーマとしては早すぎはしないだろうか、という思いがあつたように思います。しかし、総会での議論に接し、また編集委員として各論稿を読み、「人権擁護団体」は体制変動または体制転換の現在地点を測定する極めて重要なパラメーターの一つである認識をもつに至りました。固定観念に囚われた自身を反省すると共に、企画委員（阿曾正浩会員）の慧眼に敬意を表する次第です。
- …初めて編集委員なる「お仕事」をさせていただきました。編集に携わる先人たちが「編集をやる喜びの一つは、誰よりも先に原稿を読むことができること」という趣旨のことをしばしば言われますが、まさにそのとおりの思いです。この点からも、執筆者の皆様に変更して感謝申し上げます。

（篠田 優）